

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000659
法人名	株式会社 狩川佐藤組
事業所名	グループホーム やまゆり
訪問調査日	平成 20 年 2 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	673000659		
法人名	株式会社 狩川佐藤組		
事業所名	グループホーム やまゆり		
所在地 (電話番号)	山形県東田川郡庄内町狩川字小縄3番3 (電 話) 0234-51-2580		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年4月1日

【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 6 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.95人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/改築
建物構造	木造平屋建て	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 78.1 歳	最低 62 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)奥山医院 ・ 奥山歯科診療所 ・ 谷家歯科診療所
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は木をふんだんに用いた造りになっており、建物全体に温もりとやすらぎが感じられます。
ホーム3ヵ年計画の策定、全職員の段階的研修の実施、急変時の備えとしてのAED(自動体外式除細動器)の設置、敷地内の有料老人ホームやデイサービスと連携して地域貢献を目指す活動など、地域密着型サービスの一つとして今後の発展が期待されるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の事情やホームの制約を優先させず、職員の数が少ない状況でも適切な形で認知症ケアを行えるように、職員全員で運営理念と倫理規定を確認し、日常の中での実践に取り組んだ。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて職員で話し合い具体的な改善につなげており、職員全員で自己評価に取り組み、管理者がまとめる形で実施している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2~3ヵ月ごとに開催しており、ホームの利用状況、地域交流サロン、見守り隊の活動などについて話し合われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議で、家族の意見・不満・苦情を聞くように努めており、小学生の見守り隊への取り組みや夏祭り開催の際にも家族の意見等を反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地元の行事や近隣保育園・小中学校の行事へ招待される、ホームでの敬老会に地域の高齢者を招待する、地域交流事業のサロン会場としてホームを月に一度開放する、町の芸術祭に利用者の作品を出品するなど、地域との交流を積極的に進めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活の支援と地域とのつながりを重視したサービスを提供するホームとして、独自の理念をつくりあげており、玄関の目立つ所に貼り出している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念の基本方針は「安心・尊厳・地域社会・家族」の項目に分かれており、この方針に外れることがないように、職員会議で利用者の処遇、今後の活動について話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の行事や近隣保育園・小中学校の行事へ招待される、ホームでの敬老会に地域の高齢者を招待する、地域交流事業のサロン会場としてホームを月に一度開放する、町の芸術祭に利用者の作品を出品するなど、地域との交流を積極的に進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて職員で話し合い具体的な改善につなげており、職員全員で自己評価に取り組み、管理者がまとめる形で実施している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2~3ヵ月ごとに開催しており、ホームの利用状況、地域交流サロン、見守り隊の活動などについて話し合われている。		

山形県 グループホームやまゆり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>認知症サポーター養成講座の講師依頼(去年は10回)、高校生の実習の引き受けなどを通して、市町村との連携を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時の近況報告、写真入りのホーム便りの発行、編集を工夫した家族への便りの送付がなされている。また、預かり金の使途状況、職員の異動についても同時に報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議で、家族の意見・不満・苦情を聞くように努めており、小学生の見守り隊への取り組みや夏祭り開催の際にも家族の意見等を反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>隣接の有料老人ホームの開設に伴い、職員の異動はあったが、異動後も当分の間は関わりを持つことができ、利用者へのダメージを最小限にするよう工夫した。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修を段階的・計画的に進めており、毎年1回外部研修の機会を確保している。また、職員の資格の取得についても報奨する態勢をとっている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム連絡協議会への加盟や同業者との独自のネットワークを持っており、年1回交換研修を実施してサービスの質の向上に活かしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や畑の作物収穫、季節の行事について利用者から教わり、一人ひとりに寄り添いながら、互いに学びあったり、家族のように支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の態度、表情から思いや希望を把握しており、困難な時は家族関係者からも情報を得て、本人本位の視点から職員で話し合い検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の意見・要望、関係者からの情報をもとに話し合いを行い、ホーム独自の様式を使用して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化がみられた場合及び毎月定例の検討や6ヵ月ごとのサービス担当者会議の際には、家族の意見を聞いて介護計画を見直し作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	協力医療機関(内科)から毎月ほとんどの利用者が往診を受けており、歯科医の往診も2ヵ月に一度受けている。また、往診を希望されない利用者については、家族と協力して希望する医療機関での受診支援を行っており、複数の医療機関と連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できる だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	利用開始時に、ホームができるケアを家族に説明しており、早い段階から本人、家族、協力医療機関と連携をとるようにしている。また、状態に変化がある都度家族へ連絡し、本人の思いにも配慮した支援につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	職員倫理綱領に基づき、守秘義務の遵守がなされている。また、利用者や家族の誇りやプライバシーを損ねるような言動がないように注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの力、体調、希望に配慮しながら対応しており、基本的な日課はあるが、無理強いせずに歌、ホーム独自の体操、レクリエーション、散歩などを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が、食事の準備や片付けをなごやかに行っており、シソ巻作り、流しそうめん、ケーキ作り、餅つき、バイキング食などを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節に合わせて「菖蒲湯」「ゆず湯」などを楽しむことができる。また、ホームの浴槽の他に、隣接デイサービス棟の普通浴槽や特殊浴槽も利用できるため、利用者が希望すればいつでも入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの利用者の特技や力を見きわめながら、畑仕事、筋肉トレーニング、絵画、ちぎり絵、おやつや食事作りなど、楽しみごとの支援やサービス提供をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、近隣の散歩、ドライブ、神社へのお参りなど、利用者の希望やその日の状況に合わせた外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	センサーをつけているため、日中玄関に施錠することなく過ごしており、地域の協力も得ながら見守りを行うようにしている。また、施錠による弊害の理解や安全に配慮した対応について、職員間で意見交換もなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルの整備、消防や地域関係者の指導と協力を得た総合訓練を年2回実施しているが、夜間想定訓練はまだ行われていない。	○	昼夜を問わず利用者が火災や地震、水害等の災害時に避難できる方法を身につけられるように、夜間の災害発生を想定した訓練の取り組みも期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者向けの献立になるように配慮しており、調理法や声かけを工夫しながら支援されている。また、一日の食事と水分の摂取量の記録と毎月の体重測定も行いながら、一人ひとりの栄養状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が、木をふんだんに用いた温もりとやすらぎが感じられ、リビングから見えるウッドデッキも庭のアクセントになっている。お雛様のちぎり絵、利用者作の日本画、昭和のポスターなどが飾られ、利用者同士が昔を思い出しながら、ほのぼのと過ごすことができている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、クローゼット、洗面台のある居室内はゆったりとしたつくりとなっており、仏壇、家族の写真、タンス、テレビなどの馴染みのものが持ち込まれ、居心地よく安心して過ごせる部屋となっている。		